クラス	109	担当教員	やまがみ　としひこ 山上　俊彦
			人口減少と日本の将来の姿について考える
		著書･論文 研究課題等	著書・論文： 「サーチ理論と賃金格差」日本福祉大学経済論集 2012 年 「サーチ理論と均衡失業」日本福祉大学経済論集 2011 年 「日本における貧困議論の現状と展望」日本福祉大学経済論集 2010 年 「労働組合組織率低下と賃金設定」日本福祉大学経済論集 2007 年 「労働市場の不均衡と構造的失業」日本福祉大学経済論集 2007 年 「出産・育児と女子就業との両立可能性について」季刊・社会保障研究 1999 年 研究課題：労働市場における制度・慣習の経済分析 人口問題の経済分析（経済が人口に与える影響・人口が経済に与える影響）

ゼミナール概要

キーワード：人口減少、高齢化、日本経済、社会保障

目的、内容、方法等：
日本の出生率（年間に生まれる子供数）は、1970 年頃から低下し続けている。その一方では医学の発達等により平均寿命が伸びている。そのため、日本は例のない速度で高齢化が進み、高齢社会を迎えることとなった。さらに、2005 年頃からは、遂に人口減少が始まった。
若者の数が減少することで、本来、若者が高い技能を身につける環境が整備され、良い仕事に就きやすくなるはずであった。一方で、高齢者の増加に対応して社会保障制度が拡充され豊かな老後を送れるはずであった。しかし、実際には、若者は雇用不安の中に置かれている。社会保障制度を支える若年層の減少により、制度を維持できないとも言われている。また、若者が高齢者となったときに、満足な年金を受給できるのか不安視されている。巨額の財政赤字は今後の大幅な税率引き上げにつながる。人口減少は経済の停滞、株価や地価の下落を招くとされており、経済の先行きは明るいとは言えない。
しかし、本来、日本の潜在能力は高く、その能力を活用すれば明るい未来が描けるはずである。人口減少と高齢化が今後の日本経済や社会保障制度にどのような影響を与えるのかを理論と実証の両面から考えてみたい。そして日本の社会保障制度を含めた政策、税制等はどうあるべきかを踏まえて将来の日本の姿を描いてみたい。

授業計画（スケジュール）：
日本経済を考える上での基礎知識を身に付けるともに、柔軟な考えができるようにする。
社会調査等においても必要な資料収集、統計処理等の基礎知識を身につけられるようにする。
その結果、ゼミ発表や卒業研究ができるようにし就職につながるようにする。
2 年：日本経済や社会保障制度を考えるに当たって必要な経済や社会の基礎を勉強する。
3 年：具体的なテーマを設定して、共同で資料を準備し、議論し、とりまとめてゼミ発表会で発表する。
4 年：卒業研究の作成

教科書
加藤久和（2004）「人口経済学」（日本経済新聞社）：人口問題の観点から、日本経済、経済の基礎理論、社会保障の在り方について考えるための素材となる優れた書籍。
鈴木亘(2011)「財政危機と社会保障」(講談社)：日本の社会保障制度の問題点、今後の在り方について、財政や税制との関連についても考慮した優れた書籍。
参考書
松谷明彦、藤正巌(2002)「人口減少社会の設計―幸福な未来への経済学」(中央公論新社)
鬼頭宏(2011)「2100 年、人口 3 分の 1 の日本」(メディアファクトリー)
鈴木亘(2010)「年金は本当にもらえるのか？」(筑摩書房)

	担当教員からのメッセージ
加藤久和（2004）「人口経済学」（日本経済新聞社） 鈴木亘(2011)「財政危機と社会保障」(講談社)	勉強を集中的にできるのは学生時代のみですから、勉学、サークル活動と時間を有効に使って欲しいと思います。それが就職で良い仕事に就ける一番の近道です。読書をする習慣を身に付けて下さい。専門書のみでなく、教養書や新書、文庫にも優れた書籍があります。また、毎日の新聞の政治、経済欄に目を通すことが必要です。これは就職後に役立ちます。